甲南大学経済学会
編集委員

GAKKAI　NEWS　第 5 号

2011 年 11 月 30 日発行

社会見学

(概要)

甲南大学経済学会では「ものづくり」をテーマとした地域密着型フィールドワークとして社会見学を企画しています。見学先である灘菊酒造では、明治 43 年創業の伝統ある地酒酒造や、風情ある酒屋の佇(たたず)まいにふれることができます。また、大阪ガス姫路ガスエネルギー館では、環境負荷の小さい“天然ガス”を中心に、地球環境やエネルギーについて学びとることができます。

＊日時
2011 年 11 月 24 日(木) 9:00～18:00
＊定員
40 名迄(先着順)
＊参加費
500 円(昼食、バス代すべて含む)
＋昼食場所＋
ホテル日航姫路カフェレストラン「セリーナ」
＋見学場所＋
灘菊(なだぎく)酒造
大阪ガス姫路ガスエネルギー館

※掲示ポスターより抜粋

(感想)

2011 年 11 月 24 日(木)、甲南大学経済学会主催の社会見学に参加しました。この度は、地場産業に注目した「地域密着型のフィールドワーク」をコンセプトに、姫路市にある「灘菊酒造」と「大阪ガス姫路ガスエネルギー館」を訪れました。

灘菊酒造は明治 43 年創業で、創業当時の酒蔵が残っており、情緒あふれる佇まいを残している酒造会社です。アテンダントの方の説明を聞きながら酒蔵を回り、日本酒を作るのに重要になる酒米や酵母菌の重要さなど、今まで知らなかったことを知ることができました。また、酒蔵でよく見られる杉玉がありますがその意味として、新酒のできる合図を意味しており、新酒ができる時になると杉玉が緑色に染まるなどの豆知識も知ることが出来ました。

昼食場所はホテル日航姫路カフェレストラン セリーナでランチバイキングを楽しみました。ボロネーゼやスペイン風オムレツなど、とても美味しい料理が並び、和気藹々(あいあい)とした雰囲気で食事を楽しめました。大阪ガス姫路ガスエネルギー館では、環境負荷の小さい天然ガスを用いた実験を通してエネルギーと地球環境について学びました。天然ガスは CO_2(二酸化炭素)や NO_X(窒素酸化物)の発生量が少なく可採埋蔵量も多いことから、現在原子力発電が問題になっていることから、天然ガスというエネルギーに注目する必要があると改めて感じました。また、天然ガスを貯蔵するタンクを間近で見ることが出来る構内見学など、普段見ることができない場所を見学できました。

今回の社会見学において、普段知ることができない場所を見学し、大学での講義では学ぶことが出来ない多くのことを学べました。

(S・I)

11 月 24 日(木)天気は晴れ。少し肌寒さを感じる。甲南大学経済学会のイベント「社会見学」の当日。中型バスに乗っての移動。参加者は 12 名だった。今回のコンセプトは「地域密着型のフィールドワーク」。巡る先は姫路。

1 つ目の見学先は「灘菊酒造」。創業から 101 年という歴史・伝統を持ち、格式高い雰囲気を感じた。酒造名に“灘”と付いているが、「男酒」として有名な硬水の「灘の生一本」とは違い、こちらは軟水の「女酒」(伏見と同じカテゴリーと言うと判りやすいか？)。誤解のないように付け加えておくと、案内係曰く、「男酒」＝辛口、「女酒」＝甘口というわけではないらしい。今は違うが、昔は酒造りと言えば、農閑期である冬に、東北人の杜氏(とうじ)が蔵人(くらびと)を連れて出稼ぎで来るというのが伝統的であったようだ。そして、杜氏も蔵人が、数か月、故郷を離れ、酒蔵に住み込みで、寝食を共にしながら働いていたという。力仕事であり、杜氏も蔵人も 1 か所で生活するため、長らく男の職場とされてきたが、現在、灘菊酒造の杜氏は女性である。最近は発泡酒や第 3 のビールの普及もあり、また、1 人当たりのアルコール飲料消費量が減少していることから、生産量はピーク時の 10 分の 1 程度になっているらしい。一通り見学が終わった後、日本酒または甘酒(未成年他、アルコールを控えている人向け)の試飲があった。その後のバス移動のことも考え、甘酒の方を頂いた。造りたてということもあり、仄かに甘く、嫌な臭みがなく美味しく頂けた。

次に移る前に昼食を挟む。昼食場所は「ホテル日航姫路カフェレストラン「セリーナ」」。バイキング方式で、好きな料理を選ぶことが出来た。メニュー名や料理の提供方法に、細かなこだわりを感じ、好印象を持った。

2 つ目の見学先は「大阪ガス姫路ガスエネルギー館」。天然ガスがどこから、どのように運ばれ、どのように利用されているか、映像や体験を通して誰が見ても解り易い様にと、展示等に気配りがなされていた。液体窒素を使った実験を間近で見たり、世界に 5 つしかないという地球儀を使って、様々な姿の地球が見たりといった貴重な体験が出来た。

神戸に住んでいるので、姫路へは行こうと思えばいつでも行ける場所ではあるのだが、実際に行こうという機会がなかなか無かったので、今回はとても良い体験をしたと思った。

(H・O)

大阪ガス姫路ガスエネルギー館

灘菊酒造

ホテル日航姫路カフェレストラン「セリーナ」

編集後記

近代、日本でいえば明治維新以降、急速に工業化が進んだことで、国民の生活形態は、自然のリズムから離れて、機械のリズムへと移行していきました。人口は都市に集中し、地方の零細産業は衰微せざるを得ない所が多数ありました。こうした経済、産業の急速な発展は歪みを残さなかった訳ではありません。公害、ゴミ処理問題、エネルギー問題、人口爆発、地球温暖化等、一朝一夕では解決できない様々な問題が、もはや無視出来ないほどに深刻化してきています。

日本でも、一昔前までは規格品を大量生産し、各国民はそれを一様に消費するというのが当たり前の構図でした。ところが現在は人とは違うモノやサービスを求める動きが強まっています。この動きが進み、消費が多様化していけば、少量を多種作ることが出来る中小企業や、地元にネットワークを持つ地場産業の小回りの良さが大手メーカーに対しての強みになるでしょう。現段階では、まだまだ日常用いる商品に対しては、廉価な大手メーカー商品を選ぶ志向があります。しかし、価格以外に、大手メーカーには真似出来ない良質なモノや、細やかなアフターサービス等を提供していけば、顧客を増やすことが出来るでしょう。

これまでは、大きなハコを作って貰えばそれで良かったのですが、これからはハコの中身が問われるようになって来ていると言っても、過言ではないでしょう。政策提言も、公共サービスも勿論必要です。ですが、それに出来る限り頼らず、自分で考えて行動していくことが、不況や世界を取り巻く様々な問題から乗り切る原動力になるのではないでしょうか。

(H・O)